

授業科目名	いまを生きるための倫理学	担当教員	広瀬 一隆
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年 第1クォーター		
講義内容	倫理学とは、人と人が互いを尊重して対話しながら、より善い生き方を探る営みです。本講義の目的は、国内外の主要な倫理学の議論を概観しつつ、現代社会のさまざまな場面で生じる応用倫理学的問題を見つけ、自分たちにとって大切な問いとして、他者との対話を通じて考える力を養うことにあります。また担当教員の新聞記者としての経験も踏まえ、SNS から報道機関まで、現代のメディアにおける課題も考えます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重要な倫理学説について簡潔に説明することができる。</li> <li>2. この世界で他者と「より善く生きる」とはどのような営みかを倫理的に説明できる。</li> <li>3. 応用倫理学の諸問題のなかから、「自分たちにとって大切な問い」を発見できる。</li> <li>4. その問題を考える道筋を、他者との対話をつうじて、より深く、より楽しく考えるモラルを身につけることができる。</li> </ol>		
授業計画	<p>第Ⅰ部 倫理を考える意味</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「論破」することが目的なのか（ソクラテスとプラトン）</li> <li>2 誰もが守るべき「義務」はあるか（カント）</li> <li>3 「功利主義」はどこまで認められるか（ペンサムとミル）</li> <li>4 動物を食べてもよいか（シンガー）</li> <li>5 対話のための「徳」とは（フリッカー）</li> </ol> <p>第Ⅱ部 現場で起こる諸問題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代政治と SNS—近年の選挙を軸に</li> <li>2 戦争報道とプロパガンダ—戦時中の報道から</li> <li>3 パンデミックの諸問題</li> <li>4 遺族取材の困難さ—受け入れられない惨劇の記憶</li> <li>5 罪と罰—死刑は本来どうあるべきか</li> <li>6 性と結婚、家族—ジェンダーと結婚から問う</li> </ol>		
事前・事後学習	事前には、あらかじめ提示された論点について考えをまとめておく。また事後には、講義や対話・討論を通じてえられた示唆にもとづいて、自らの問題についてさらに考察を深め、自らの考えをまとめる。		
テキスト	児玉聡『実践・倫理学—現代の問題を考えるために』（勁草書房）		

参考文献	広瀬一隆『誰も加害者を裁けない 京都・亀岡集団登校事故の遺族の10年』 (晃洋書房)
成績評価の基準	出席や受講態度（15%）、中間レポート（35%）、期末試験ないし最終レポート（50%）によって総合評価します。
履修上の注意 履修要件	グループによる対話討論を積極的に導入します。文章の書き方についても適宜授業で扱い、添削などを行います。
実践的教育	
備考欄	定員を超過した場合、それまでの出席・課題の提出状況により選考します。